

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	個別ケアによる家庭的雰囲気の中で豊かな人間関係を保ち支えあう暮らしを目指しましょうを理念としている。	○  理念がさらに浸透するよう努めたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいたケアを実践し利用者が快適な生活ができるよう取り組んでいる。	○  職員間でのカンファレンス・ミーティング等を通して理念を共有し、実践に取り組んでいく。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族・近隣の方の来苑時、運営推進会議等を通じて、地域に馴染んだ生活の重要性を理解してもらうように働きかけている。	○  管理者・職員が共に地域資源の大切さを把握し地域ネットワークを築いていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者の方と散歩や近所の買い物・美容院を活用し地域の方との交流を増やす機会を作っている。	○  地域の方にグループホームを少しでも知って頂くように、もっと気軽に訪問してもらえるように工夫したい。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	定期的に運営推進会議を開催し地元の方との交流に努めている。また、地域の行事（市民スポーツ祭）等に参加している。	○  今後も地域の行事にも積極的に参加し、またグループホームの行事に地域の方にも招待できるように取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員間では入居者の方で手が器用な方が多いので作った作品を活用できたらとの声はあるが業務上、話し合いができていないのが現状である。	○	まずは地域交流について、会議等で話し合いをする機会を増やしていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定期的に外部評価がある事で、改善すべき事が具体的にわかり、サービスの質の向上にもなるので今後も取り組みたい。	○	会議の場で入居者の方のケアについての意見交換や業務の見直し等の話し合いを定期的に行っている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施する中で、サービス内容の報告や地域の情報を交換する事でサービス向上を目指している。	○	今後も運営推進会議の場を活用し、地域の方の意見を活かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者に関わる窓口の担当者やその他必要に応じて相談するように心がけている。	○	相談できる窓口の活用、情報交換においても市町村との連携を深めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、地域権利擁護事業や成年後見制度を利用している方がいないので、話し合いができていないのが現状である。	○	定期的に必要な方がいないか個々に話し合いをする場を作りたい。また研修会や勉強する機会をつくっていききたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から身体的・精神的に変化がないか訪問看護を含め注意している。また会議等を活用し職員の認識を深める。	○	研修の参加や会議等で話合う機会を作り、今後も認識を深めていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	○	家族・入居者の気持ちを傾聴しながら理解してもらえよう努力していく。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	ケアプランの説明時や来苑させた際に苦情・不満がないか家族に確認するように努力している。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	○	苑の季刊誌で普段の生活や行事の様子を送付している。また家族にも行事、参加を促し交流する機会を増やすように努力している。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	家族の希望や苦情を聞きだせる環境作りをしていきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	ミーティングにて意見を出せるような雰囲気作りを心掛けている。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	1階・2階と両方業務をこなせる職員を増やせるように検討中

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニットの職員を固定化し、なじみの職員によるケアを心掛けている。	○	職員のストレスや仕事に対しての不安要因を改善できるように、会議の場を活用したり、また職員間のコミュニケーションも大事にし職員が働きやすい職場作りを努めている。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加できる機会を作り、また職員の育成の為に資格アップを目指す勉強会を開催している。	○	様々な研修に参加できる環境作りに努め職員のスキルアップに繋げたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市介護保険事業者連絡協議会や大阪認知症グループホーム協議会に加入し研修会や勉強会に参加し情報交換を行っている。	○	施設外での研修などに参加し、より良いサービスを提供していきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	会議等を活用し、職員の不満・不安を改善できるように話し合いをし、また悩みの相談などができるように雰囲気作りに努めている。	○	法人全体のレクリエーション（日帰り旅行など）また職員同士の交流会・福利厚生を積極的に行っている。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々が目標・充実感を持ち介護に関する専門職としての意識向上を目指している。	○	研修の機会はできるだけ多く確保していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス担当者会議に本人様も参加して頂くようにして希望等を傾聴できるように努めている。	○	常日頃より個々の入居者様とのコミュニケーションを更に図り話しやすい雰囲気作りを職員間で徹底していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	年4回発行している季刊誌にて行事の参加を促し、年1回家族交流会を実施している。	○	家族の方が来苑しやすい空間作りが出来れば入居者の方の笑顔も増え、家族の方との交流も密にしていけると思う。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の環境や状態に応じ、また本人や家族との相談で他のサービスの選択肢の説明も行っている。	○	すぐ対応できるようにサービスの幅を広げておくように努める。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	苑に来られる前は、どのように過ごされていたか等を事前に把握し、少しでも本氏の嗜好に近づけるよう支援する。	○	体験入所制度を行っている。生活されていた馴染みの家具・布団を使ってもらう事で少しでも在宅での生活と変わらない雰囲気作りに努めている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に食事作り・掃除・洗濯をして頂く中で入居者の方から学ぶ事も多く、一緒に生活をしていると言う気持ちを大事にしている。	○	今後も入居者の方の得意な趣味や優れていることに関しては職員が教わるようにして尊厳の維持に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年に1回の家族交流会や納涼祭に来られた際にコミュニケーションを図る等して今の状態・今後のことを話す機会を設けている。	○	今後も家族との交流を大事にし、家族交流会も継続していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時などに職員と話す機会を設けたり、ケアプラン作成の際に意向を求める。また、行事を通し本人と家族との交流の機会を増やす。	○	今後も家族との連携を大切にしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族さんの協力もらい、本氏の希望に応じて馴染みの人に面会をお願いする。	○	外出の機会を活用し馴染みの町へ、買い物に行く機会を作っているので途切れないように継続していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	自然と入居者同士が協力し合ったり、励まし合ったりされる姿がみられる。利用者が個々に落ち着かれる空間作りを提供する。	○	利用者が自然と協力し合ったり支えあったりできる環境づくりを目指したい。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	グループホームに関する相談だけでなく、退所後の相談等も受ける事の説明を行っている。また福祉全般の相談の受け入れをしている事も説明している。	○	家族等が気軽に、来苑してもらえるように雰囲気作りをし又家族・入居者との信頼関係を大切にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々のニーズに合わせた対応が出来るようにカンファレンス・会議等で話し合い、本人の生活歴・性格を把握するように努めている。	○	家族の意見・意向が少ないので、もっと聞きだせるように努めたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族が面会に来られた際は少しでも話をする時間を持ち、本人の情報交換をし日常生活に生かせるように努めている。	○	普段の生活の中でも、新たに趣味や生活習慣の発見ができるようにコミュニケーションは大事にしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の身体・精神状態を日々把握し、ニーズに合わせた対応が出来るように話し合い、個々に合った過ごし方を促している。	○	今後も個々に合った楽しみ方を大事にし、又それぞれの特技や趣味が生かせるように支援していきたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎週のサービス担当者会議を実施し個々の課題、本人の希望を話し合い、また家族の意見・意向も聞くように努めている。	○	職員間で意見交換を行い、より良いケアを行える様、少しの変化も見逃さないように努める。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月ごとに見直し、モニタリングは毎月、見直しを行っている。また状態に応じて家族と相談している。	○	変化が生じた場合はすぐに家族に相談し、必要に応じては看護師・ドクターに意見を求めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段から情報伝達を行い、個別記録は詳しく又家族が読んでも解かりやすい言葉で記録をしている。計画の見直しにも普段の個別記録も活かせるように特変の場合は赤ペンを使用している。	○	個別記録は詳しく書きすぎているのではとの声もあり業務の負担にならないように改善していく課題である。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の希望に応じて相談・対応できるようにしている。	○	今後も併設施設・さまざまな機関等連携をとり支援体制を作っていきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事の中で地域のボランティアを活用している。また地域の行事にも参加している。	○	今後も地域との関わりを大切にし、さまざまな機関等の連携を図っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて他の事業所・ケアマネジャーと連絡・相談できる体制はある。	○	情報交換を行い、連携を深めていくように努めたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協力し合える関係である。	○	必要性に応じて協働する体制である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医は本人・家族と話し合い、本氏の希望を大切にしている。また専門病院等の受診は家族にお願いしている。	○	病状に変化がある場合は家族・専門医・職員で今後の方向性等を話し合うが本氏の意味を尊重する。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医の協力病院や医師などから協力を得ている。	○	今後も協力病院や医師との連携を強化していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設機関の看護師が、ほぼ毎日きているので、いつでも相談ができ、すぐ対応ができる。24時間、連絡ができる。	○	今後も看護師と連携を密にとり、的確な対応ができるように取り組みたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	今後も協力病院や医師との連携を強化していきたい。	○	協力病院・管理者・家族の方と定期的に話し合いをし病院関係者との連携も大切にしていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の状態に応じて家族を含め・主治医・看護師とその都度、協議し今後の方針を決め対応している。	○	終末期に関しては個々に色々なパターンがある為その都度、話し合いを密にし対応していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	精神面でのケアも大事になってくるので不安を与えないように一日一日を有意義に過ごしてもらえようように支援し、また家族の協力も大事なので促す。	○	ターミナルケアを経験し、終末期に関しては家族がどこまで協力して頂けるのか早い時点で協議する必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所時に極力、本人の馴染みの家具や布団を持ってきてもらい環境のダメージを軽減するように説明している。	○	入所の際は家族・本人の意向を話し合いをし又ケア関係者とも情報交換も行い移り住む際のケアには注意を図る。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には個人情報の取り扱いについて説明をし、また入居者の自尊心を傷つけないように、さりげない支援を心掛けている。	○	今後もプライバシーを損ねるような言葉かけや対応に注意し定期的に職員間で確認していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の意見を聞けるように、サービス担当者会議に入ってもらい本氏の希望を取り入れるようにしている。	○	今後も入居者が自己決定出来るように工夫していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の性格・生活習慣を大事にし、その人に合わせた援助を行えるように話し合い、取り組んでいる。	○	業務の都合上、すぐに対応が出来ない時もあるが、できる限り入居者の希望に添った支援をしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1回、美容師が来苑あるが、ほぼ全員が行きつけの美容院に行っている。そこで地域交流も含め利用している。	○	今後も、見だしなみやおしゃれが出来るようにアミューズメント等の買い物に行く機会を増やし楽しんで頂く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週日曜日の夕食はお楽しみメニューと題して、献立・買い物から調理と、職員と共に作業をし、楽しんでもらう。	○	毎週日曜日のお楽しみメニューは好評なので続けてきたい。
55	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	極力、一緒に買い物・喫茶店・スーパー等に行く機会を作り、好きな物を選んで購入して頂くも個々の嗜好には対応しきれない部分が多いのが現状である。	○	おやつが好きな方が多いので、おやつ作りで入居者の希望を取り入れるように工夫していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し個々に応じて対応している。習慣を活かし、日中は極力、下着にて過ごしてもらうように促している。	○	個々の力を維持できるように、気持ちよく排泄ができるように支援していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現状は入浴日・時間が決まっているので個々の好きなタイミングで入っていることは少ない。	○	本氏の希望に沿って実施できるように考えていきたい。
58	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間は個々に合わせて対応し、無理強いはない。日中、傾眠されてる方については居室で休んでもらうように促している。	○	馴染みの布団を持ってきてもらう事で、安眠に繋げている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々において興味のある事、得意分野のレクリエーションを促し、楽しんで頂けるように支援している。行事にも力を入れている。	○	更に個別化したレクリエーションの強化に努め、今後もボランティアの活用も増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じて支援しているが極力、本人の支払いは本人にしてもらうように促している。自己管理されている方もいる。	○	今後も個々の希望や能力に応じて支援していきたい。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の日を決めており、散歩や喫茶店・買い物・散髪などによく出掛けている。	○	入居者の方の希望に合わせて対応していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事を活用し外出を取り入れて、外食や散策を実施している。	○	家族と一緒に出かけられる機会が、なかなか無いので、機会が作れるように取り組みたい。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞い等のはがきを家族に送っている。希望があれば電話も、いつでもできるように対応している。	○	個々の希望や能力によって違うが、家族や大切な方への交流が図れる支援は大事にしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人の方は、いつでも来苑して頂けるように声かけをし居室においてもフロアにおいても、にこやかに談話されている。	○	今後も、ゆっくりと談話できるような雰囲気作りを心がけたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような状態であっても身体拘束をしないケアに取り組んでいる。観察や見守りを大切にしている。	○	身体拘束について勉強会・研修がないので、職員全員が深く理解できるように取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のカギをかける事の弊害は理解はしているが玄関前の道は車の往来も多く事故も多いので危険防止の為カギをかけている。	○	居室に関してはカギをかけないケアをしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定時の人員確認行っている。日中の入居者の服装・所在は必ず把握するように努めている。	○	本人のプライバシーに配慮し、気付かれない・さりげない介護ができるように職員は努力をしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤・消毒剤等は倉庫にカギをかけている。包丁・ハサミ等は必ず見守りを行い使用できるようにしている。針は使用后、本数確認している。	○	誤薬防止の為職員二人で確認。薬セットも必ず二人で確認をし徹底している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状態に応じて、危険な可能性がある場合は、すぐ話合う。又見守り・付き添い等を行い、事故防止に取り組んでいる。	○	火災訓練を定期的に行い、誤薬・転倒の際は報告書を提出し全職員が把握し会議等で体策を取る。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の連絡網や緊急搬送の病院の連絡先の表示。緊急時のマニュアル作成。ナース・ドクターの指示を仰ぐ。	○	研修の機会を増やしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練を行っている。非常口の鍵の場所の把握、夜間は携帯している。	○	日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状態が変化した際は家族に連絡し理解を仰いだり意見を聞いている。	○	リスクによる変化が軽減できるよう配慮し家族と協力し対応していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化のある場合は速やかに看護師に報告し指示を仰ぐ。毎日の朝・夕の申し送りを行い問題点や注意点を把握し対応している。	○	今後も、どんな小さな変化でも看護師に連絡をするように取り組んでいる。
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の個々の状態を観察し、ドクター・看護師と相談しながら支援している。また個人記録には服用されている薬の内容がファイルされている。	○	医療機関等の連携を図る。
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	看護師に報告し指示を受けているが、便秘薬だけに頼らず、本氏の状態に合わせて牛乳・体操の実施を促している。	○	看護師・ドクターと連携を図る。
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・晩の歯磨きの声かけの実施、介助の必要な方は朝・昼・晩、実施をしている。イソジンうがいには毎食、全員行っている。	○	専門家の医師に相談や定期的に受診できるように体制を考えたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事を毎日チェックし状態を把握している。栄養のバランスを考えシルバー食の献立を提供している。	○	旬の果物や野菜を取り入れ栄養のバランスを考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり職員室にも対応表を貼っている。外出後や毎食前に手洗い・消毒・うがいの徹底している。	○	研修で得た知識を活かし、体策の徹底に努めたい。
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等の衛生管理を徹底し、毎日、スポンジ・まな板等をハイターづけをしている。毎食後の1週間分は検食用に冷凍室に保管している。	○	今後も環境整備・調理方法にも注意していきたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関横の花壇に花や野菜の苗を植えており、入居者が外出した際に楽しめるように工夫している。	○	四季おりおりの苗を植え、入居者に興味を持って頂く。今後も安心して、いろいろな事に取り組みたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節感を味わえるよう壁画作りやトイレの中の造花等、家と変わらぬ生活感をつくりだすように工夫している。	○	今後もより一層工夫をしたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い人と隣り同士に座って頂いたり又楽しみが共有できる様なレクリエーションを取り入れている。	○	個々が安心できる空間作りを工夫していきたい。また職員も日々の生活の中で気配りをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス・布団等を持って来て頂き使用 してもらおう。家庭的雰囲気を作れるように工夫し ている。	○	今後も居心地がいいと思ってもらえる居室作りに 配慮していきたい。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	利用者が快適に過ごせるようにエアコンで温度調 整をしている。定期的に換気も行っている。	○	職員が室温、臭いを感じとり利用者が快適に過 ごせるよう対応していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	立位の困難な方は居室内に手すりの設置がしてあ り、転倒防止の為に居室内の備品の配置に考慮し ている。ベット生活が危険な方は布団で対応して いる。	○	利用者の方が安全な生活が送れるように工夫して いきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	個々の状態や理解力を把握し、混乱や失敗は否定 しないように対応する。	○	人格を尊重し、本人の出来る事を活かし対応して いる。
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ベランダ等に四季の花を植えたり、建物の周囲に は野菜等も育て利用者に水やりを促し成長を一 緒に楽しんでもらう。	○	利用者と一緒に苗を購入したり水やりも自ら進ん でして下さる。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)